



学校だより 令和8年3月2日

はなぐりみなみ

3月^{やよい}(弥生) 草加市立花栗南小学校

学校教育目標
考える子
思いやりのある子
体をきたえる子

「あいさつ運動」発祥の地
あいさつじまん



オリンピックからの学び

校長 小林和美

春一番が2月23日に埼玉県でも観測され、暑いくらいの気温の日と、冷たい空気の日が交互にやってきながら、季節が春へと変化しています。桜の芽が膨らみを見せる中、子ども達の表情にも一年の成長が見えてきました。学年の締めくくりである3月、「できなかったこと」よりも「できるようになったこと」に目を向け、次の学年への一歩を踏み出します。

日本選手団が大きな活躍をした、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが先日閉幕しました。歴史的快挙を成し遂げたペアフィギュアの三浦璃来選手と木原龍一選手“りくりゅう”の歩みからは、さまざまなことを学ぶことができます。

りくりゅうは、ショートプログラムでのミスにより5位からの追い上げを強いられました。しかし翌日のフリーでは集中力を切らさず、渾身の演技でフリー158.13点、合計231.24点をマーク。日本のペアとして初めて、オリンピックの金メダルに輝きました。この「5位からの逆転優勝」は、大舞台でもあきらめない姿勢が結果を変えることを示しています。大切なのは、失敗を終わりにしないことです。ふたりは前日のミスを抱えながらも互いの言葉で心を支え合い、「もう一度、最初からやろう」とリンクに立ちました。結果よりもまず「立て直すプロセス」に集中したことが、最大の力になりました。日々の学校生活でも、テストや発表が思うようにいかなかったとき、深呼吸をして手順を確認し、次の一手に集中するという、その積み重ねが子ども達の自信を育てます。もう一つ学べるのは「助け合いが力を引き出す」ということです。ペアは、一人では成立しません。相手の呼吸を感じ取り、支え、任せる。教室でも同じです。困っている友だちにさりげなく声をかける、役割を分けて取り組む、うまくいったら一緒に喜ぶ。こうした日常の小さなペアワークが、学級の力を底上げします。そして努力の継続。りくりゅうは長い年月、けがや不調を乗り越えながら技と表現を磨いてきました。努力の足跡は、結果が出るその日まで外からは見えにくいものです。しかし「見えない努力」を続けた人ほど、いざというとき大きな力を発揮します。子ども達にも、毎日の家庭での学習(宿題や音読、自主学習)やお手伝いや習い事の中で、小さな積み上げを、誠実に続けてほしいと思います。

令和7年度の締めくくりにあたり、子ども達一人ひとりが、失敗を恐れず挑戦し、仲間と支え合い、努力を続ける姿勢を身につけて次の学年へ羽ばたけるよう、教職員一同で応援してまいります。

地域・ご家庭・PTAの皆様には、ご理解とたくさんのご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。学び舎を巣立ち、卒業していく6年生を含め、子ども達はさまざまな場面で地域の中で育っていきます。地域やご家庭の皆様には、これからも子ども達の笑顔が輝く日々となるように温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。



あいさつじまん どくしょじまん そうじじまん